

2011年12月5日(月)

国立社会保障・人口問題研究所 DP 発表会

Comments on “Precautionary Savings and Single Women in Japan  
Precautionary” by Wataru KUREISHI and Midori WAKABAYASHI

福田 節也 (厚生労働省大臣官房統計情報部)

1. 本研究の概要

- ・ 研究の目的：未婚で留まることを予期している女性ほど予備的貯蓄 (precautionary saving) を行うのではないかと、という仮説を検証
  
- ・ 理論的背景：
  - ①将来の所得に対する不安 (不確定要素) が高まるほど、予備的貯蓄率は上昇する
  - ②結婚にはリスク分散機能がある
  
- ・ 独自性：予備的貯蓄と結婚に関する先行研究のほとんどは夫の失業 (収入の低下) による妻の就業などについてのもので、未婚で留まるリスクが予備的貯蓄に与える影響についての先行研究は皆無である
  
- ・ 仮説検証の操作化について
  - 仮説①：  
予備的貯蓄  
「病気、災害、その他不時の出費に備えるため」  
「特に目的はないが貯蓄をしていれば安心だから」  
→ 未婚で残る見込みが高い女性ほど、上記の貯蓄が多いはず
  
  - 仮説②：  
予備的貯蓄ではなく、生涯を通じた所得平準化 (income-smoothing) に動機付けられた貯蓄  
「耐久消費財の購入資金に」、「レジャー資金に」、「老後の生活に備えるため」  
→ 結婚後に高い (安定した) 所得が見込まれるならば、上記に対する貯蓄も少ないはず。  
→ 結婚する見込みがある女性ほど、上記の貯蓄も少ないはず

- ・ 使用データ：「消費生活に関するパネル調査」 第 9-12 回（コーホート A&B）  
第 11-14 回（コーホート C）  
観察開始時点におけるサンプルの年齢  
（コーホート A：32-42 歳、コーホート B：28-31 歳、コーホート C：24-28 歳）
- ・ 分析方法
  - ①横断的分析：結婚意向と県別未婚率を操作変数とした 2 段階 OLS 推定（第 9&11 回データ）
  - ②パネル分析：上記モデルを固定効果&変量効果モデルに拡張（3 年間追跡）

## 2. 主な知見

- ・ 3 年以内に未婚である女性ほど
  - ①予備的貯蓄の希望額が高い（パネル分析では、「病気、災害、その他不時の出費に備えるため」の貯蓄希望額のみ有意）
  - ②所得平準化のための貯蓄の希望額が高い（横断分析ではレジャー資金と老後のための貯蓄希望額が有意、パネル分析では老後のための貯蓄希望額のみ有意）
- 未婚に留まることを予期している女性ほど予備的貯蓄、所得平準化のための貯蓄ともに多い可能性がある

## 3. コメント

- ・ テーマへの着眼点
  - ー日本では女性の所得保障が結婚によってなされる傾向が強い
  - ー女性の生涯未婚率の上昇が広く世の中に認知されつつある
- 予備的貯蓄の研究分野においては、ユニークかつ最近の傾向に適った着眼点
- ・ 予備的貯蓄の操作化について
  - 「老後の生活に備えるため」は予備的貯蓄では？
- ・ 2つの分析が並立していることについて
  - 推定値に基づく金額が論じられているが、Cross-section と Panel 分析で、どちらの結果を重視するべきか、基準や見解があれば説明がほしい。

- 仮説①は仮説②の必要条件なのではないか？
- それに対応した形で論理構成する形もありえる。
  
- 本研究の課題
  - ① 分析の従属変数は、貯蓄希望額であり、実際の貯蓄額ではない。
    - 測定エラーが大きそう（どの程度現実を反映した値なのか？）
    - 結婚する見込みであっても、未婚時の状況に基づいて必要な金額を記入している可能性
    - 外れ値による影響をチェックして、必要であれば何らかの補正をする必要がある
  - ② 本来、理論が対象としている貯蓄率ではなく、貯蓄（希望）額を従属変数としている
    - 理論の検証において、どのような問題があるか？
  - ③ 理想的には、結婚する見込みなし（薄）から見込みありに変化することによる希望貯蓄額の変化を推定すればよい？（あるいは結婚直前と直後での比較？）
  
- 分析方法への提案
  - ①未婚で留まることを予期しているか否かの操作化について
    - － 結婚を予期しているかどうかは、第9回調査（コーホート A&B）と第11回（コーホート C）から3年以内に結婚したかどうかで判断
  
- Q. 結婚（法律にもとづくもの）はしたいですか。
  - ①まもなく結婚することが決まっている
  - ②すぐにでもしたい
  - ③今はしたくないが、いずれはしたい
  - ④必ずしもしなくてよい
  - ⑤したくない
  - 上記質問項目については、文中、**marriage preference** とあるが、**marriage anticipation** そのもののように思われる。操作変数として扱うことにはやや疑問。
  - 上記の変数を独立変数として分析するのが直接的に思えるが、この変数を独立変数とした分析は検討されたのか？（→ 13 ページの脚注3では、上記の変数では貯蓄希望額に対して非有意な結果とあるが・・・）  
例えば、固定効果モデルなど。

→ 10 ページで、上記変数の回答カテゴリ別に3年以内の結婚確率を記述しているが、逆に、3年以内に結婚した女性の上記項目の分布はどのようになっているか？（結婚の3年前、2年前、1年前で、①や②に集中していくのであれば、この変数と希望貯蓄額との動きをみればよいのでは？）

## ② 分析サンプルについて

子どもがいない独身女性 → 未婚女性に限定するべきでは？

→ 再婚の対象となる女性は異なる振る舞いをする可能性

### ・ 政策的インプリケーションについて

未婚で留まる予定の女性ほど将来への所得の不確実性が高い状況にあることから、社会保障の充実を訴えているが、論点が抽象的。また、大企業に手厚い社会保障や世帯ベースの社会保障を批判しているが、分析で得られた知見に基づくものではなく、唐突な感じがする。もう少し、慎重かつ綿密な論拠が必要ではないか？

また、結婚市場のミスマッチを解消する必要性を説いているが、具体的にどのようなミスマッチの解消を意図しているのかが不明なため、全体的に意味がよくわからない。

生涯未婚女性の所得保障や将来の所得不安の軽減といったことがここで提案されるのであれば、どのような具体策が可能かについての提言が必要があるように思われる。

以上。